

アーチルニュース ちえなっぷ 第27号

《今号の内容》

- ◆ 「アーチル連絡協議会」の
取り組みについて
- ◆ 「アーチル療育セミナー」の
開催報告

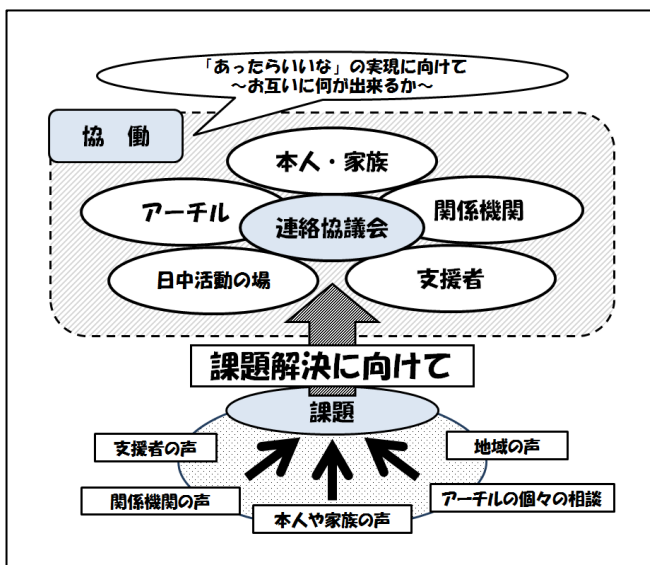
※アーチルは「仙台市発達相談支援センター」の愛称です。子供から大人まで、発達障害の方の支援を行っています。
※ちえなっぷは「CHIN UP! (前を向いて)」の意味です。

目指すは「誰もが生きやすい社会」の構築

アーチルでは、昨年度(平成26年度)の相談件数が南北アーチル合わせて1万件を超えました。相談件数は年々増加し、相談内容も多岐に渡っています。そのような状況の中で、発達障害がある方もない方も、「誰もが生きやすい社会」を目指していくことが求められています。

アーチルでの個々の相談や多くの方々からの「声」から見えてきた「課題」を解決するためには、本人を中心に、家族や支援者、地域の方々、関係機関(保健・福祉・教育・医療・法曹等)が、力を合わせて支援をしていく(協働していく)必要があります。

アーチルでは、それらの関係者等が委員となった「アーチル連絡協議会」を開催し、2年毎にテーマを定めて、「あったらいいな」(共通の課題)の実現を目指し、共に話し合ってきました。



平成26・27年度は、「発達障害児者の地域生活の充実に向けた支援体制について」をテーマに、発達障害児者の地域での暮らしや支援のあり方等について話し合いました。連絡協議会で出された意見は「提言書」としてまとめられ、今後、アーチルのホームページでも公開する予定です。

今号では、連絡協議会で出された意見の一部と、1月にアーチルと連絡協議会の委員が協働して開催した、アーチル療育セミナーについて紹介します。

《連絡先》 仙台市北部発達相談支援センター(北部アーチル) 電話:022-375-0110

仙台市南部発達相談支援センター(南部アーチル) 電話:022-247-3801

《ホームページ》 <http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou/> もしくは「アーチル」で検索

※この広報誌についてのご意見・お問い合わせは北部アーチル企画総務係までお願いします。

「誰もが生きやすい社会」に向けて

連絡協議会の「声」から

「困難が理解されにくい」

…発達障害の方は、会話ができるのに対人関係が苦手など、見た目と障害の特性とのギャップがあり、周りの人に、生活上の困難さがなかなか理解されず苦労しています。

「得意分野を仕事でも活かしたい」

…発達障害の方は、苦手なことがある一方で、特定の興味・関心のある分野では周りの人よりも非常に優れた能力を発揮できる場合があります。障害がある方もない方も、互いの長所を出し合って協力していくことが大切です。

「支援の種類を増やしてほしい」

…まだまだ発達障害の方に対する支援の種類や社会資源は十分ではありません。色々な意見やアイデアをもらいながら、支援の種類を増やしていかなければなりません。

あったらいいな
できたらいいな



(アーチル連絡協議会の様子)

アーチル療育セミナーを開催しました

1月16日(土)、アーチルとアーチル連絡協議会の委員が協働して、アーチル療育セミナーを開催しました。

第1部では、滋賀県の社会福祉法人グローから松田裕次郎氏を招き、成人期の生活支援について講演いただきました。利用者に身に付けてほしい3つの力(くらす力・はたらく力・いきる力)や、支援者として気を付けるべきこと、支援者間の連携のあり方についてお話いただきました。

第2部では、「発達障害児者が安心して生活できる地域とは」をテーマにシンポジウムを開催し、連絡協議会委員にシンポジストとして参加していただきました。当事者の委員からは苦労したことや必要な支援について、支援者の委員からは支援の考え方について、お話いただきました。

(療育セミナー第2部の様子)



「落ち着ける場所を増やしてほしい」

…発達障害の方にとって、安心して自分の時間が過ごせる場所は重要です。落ち着ける場所を意識して作っていく必要があります。

「本人や家族からの発信・協働が大きな力になる」

…支援されていた方や家族が、ある時には支援者として発信や協働することで、市民の理解がより進み、発達障害の方がより過ごしやすい社会を作っていくことができます。

- ★誰もが地域で暮らしやすくなるために・・・
⇒差別解消条例(仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例)が4月に施行されます。
- ★地域からも色々な動きが・・・
⇒各区の自立支援協議会が開催されています。アーチルも協働していきます。

連絡協議会の「声」は提言書へ

アーチル連絡協議会で話し合ってきた各委員の「声」は、提言書にまとめられます。提言書はアーチルのホームページで公開予定ですので、誰でもご覧になることができます。

みなさんからの「声」が課題解決の大きな原動力となっていきます。今後もアーチルへの様々な意見をお待ちしております。